

考古学から見た江戸城石垣石丁場跡
－石材加工と石丁場－

国立歴史民俗博物館・村木二郎

はじめに

石丁場遺跡とは

中世初頭、軟質石材を使った石造物

香川県大串石丁場遺跡：讃岐石（凝灰岩）の石塔

長崎県ホゲット遺跡：滑石の石鍋

1. 東大寺復興と宋人石工、硬質石材を使った石造物

「建久七年（1196）。中門石獅々。堂内石脇土。同四天像。宋人字六郎等四人造之。」

『東大寺造立供養記』

2. 硬質石材加工と「矢穴技法」

伊派石工の祖＝伊行末：東大寺復興事業に参加した宋人石工

←弘長元年（1261）大和国般若寺笠塔婆（嫡男伊行吉制作）の銘文

大蔵派と関東安山岩製石造物

文応元年（1260）大和国額安寺宝篋印塔（大蔵安清制作）

…基礎部分が現在確認されている最古の矢穴痕

永仁四年（1296）or 正安二年（1300）相模国箱根宝篋印塔（伝多田満仲塔）

…「大工大和国所生左衛門大夫 大蔵安氏」

矢穴技法：「矢」とよぶ楔状の鉄製工具をいくつも石に差し込み、これを順に叩いて石を押し広げて割る技法。矢を挿入した痕跡が「矢穴」として残る。矢穴は鑿で掘るため労力があるので、できるだけ少なくして小さい穴ですむようにするのが石工の技量。

3. 公儀普請と石丁場遺跡

大坂城：香川県小豆島・兵庫県大坂城石垣石丁場跡ほか：花崗岩

江戸城：静岡県・神奈川県江戸城石垣石丁場跡ほか：安山岩

大型の矢穴、間隔を詰めた矢穴

直線に並ばない矢穴、穴の底に矢が当たった矢穴、割れていない矢穴